

ユネスコ 世界ジオパークの再認定審査

「洞爺湖有珠山ジオパーク」の世界ジオパークの再認定審査が、7月24日から27日に洞爺湖町、豊浦町、壮瞥町、伊達市で行われました。



▲カムイチャシを説明する渡辺学芸員

カムイチャシ史跡公園と礼文華海岸

再審査は4年に一度行われ、国連教育科学文化機関（ユネスコ）から派遣された審査員2名が、4日間の日程で洞爺湖有珠山ジオパーク内を視察しました。

豊浦町では25日に、カムイチャシ史跡公園と礼文華海岸のジオサイトを訪れ、小西重勝豊浦町郷土研究会会長、渡辺つづり学芸員からそれぞれのジオサイトの特徴について説明をしました。



▲カムイノミ・イチャルパを説明する宇治会長

アイヌ語を次世代に伝える活動を

また、礼文華生活館で、宇治義之豊浦アイヌ協会会長より、先日行われたアイヌ民族儀式「カムイノミ・イチャルパ」の様子を、映像を見せながら審査員に紹介されました。

審査員で英国地質調査所のカースティン・レモン氏は、「アイヌ語について、ジオパークとの関わりで、言語の保護に努めてほしい」と話し、宇治会長は「この洞爺湖有珠山ジオパークの協力をいただきながら、アイヌ協会の発展に尽力したい」と述べていました。



再認定の審査結果は、審査員レポートが事務局に提出され、ユネスコ内で協議し、秋には再認定の可否が発表される見込みです。

◀宇治会長(前列中央)、カースティン・レモン審査員(左)、ザン・ジャンピン審査員(右)と関係者で記念撮影